

コミュニティ・スクールの
推進についての提言書

令和4年12月

阿見町議会

阿見町のコミュニティ・スクールは、令和3年度から阿見第二小学校にて20名の学校運営協議会委員と多くのサポーター・ボランティアによって開設された。同校は、以前よりサポーター・ボランティア制度を導入しており、町内でも地域の方々の学校に対する協力体制が確立されている学校の一つである。このため、同校をコミュニティ・スクールのモデル校として位置づけ、開設に向け教育委員会や学校、コーディネーターが協議を重ね、町内1校目のコミュニティ・スクールとして活動が始まった。児童の登下校の見守り、芝桜、花壇等の環境整備、グラウンド・道路等の落葉清掃、児童への読み聞かせ、井関農機での写生会、木の実拾いなど多くの活動が実施され広がりを見せてきた。

しかし、燃料代など活動費の不足や、ボランティアの高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響による参加人数の減少など課題も顕在化してきた。

このため、同校の課題解決とコミュニティ・スクールの町内全校への早期展開策として、以下の内容を提言する。

記

1. 学校を取り巻く環境には地域性があるが、できる限り全校同時にコミュニティ・スクールを実施すること
2. 教育委員会や学校、地域が、コミュニティ・スクールが学校にとって不可欠なものとの認識を持ち、「社会総掛かり」で、子ども達や地域の輝く未来を創る意識を全員が共有できるようにすること
3. コミュニティ・スクールに欠かせない地域学校協働活動の体制造りを早急に推進すること
4. コミュニティ・スクール推進のため、開設の前段も含めた予算措置を講ずること
5. 文部科学省派遣制度コミュニティ・スクールマイスターにより、推進体制の構築や取組の充実を図り、コーディネーターの配置・活用により活動を加速させること

以上